

旭

印刷を支え加工を活かす

工場本部 瓜破工場 中綴じ部門 機長
 やまもと 浩二

製本業を営む他社から2011年に転職してきた山本浩二さん。現在は、瓜破工場の中綴じ部門で機長として働いています。製本業に就く前の仕事はプログラマーでした。異業種を経験してきた山本さんの目に、製本の仕事はどのように映ったのでしょうか。印象深い出来事や現在の仕事への思いと共に伺いました。



——製本業に就く前のお仕事について教えてください。

ソフトウェア業界でプログラマーとして働いていました。高速道路の料金所向けに料金を知らせるアナウンスの音声を作ったり、外資系のコンピュータ会社に出向してプログラミングを手がけたりしていました。一日中、机の前に座りっぱなしの頭脳労働系の仕事です。製本業の仕事は旭紙工株式会社の前に、別の会社でも経験してきました。

——まったく違う業種から、製本業界に転職されたんですね。

勤めていた会社が倒産してしまったため、再就職をしようと活動していたところ、たまたま見かけた折り込み広告に掲載されていた製本会社の業務内容に興味をもちました。ソフトウェア業界では、プログラムのような目に見えないものを作り続けてきたため、次は成果を目で見て触れる「もの作り」を仕事にしたいと思ったのです。座りっぱなしの仕事より、体を動かす仕事の方が向いているのではないかと感じたのも、異業種に進んだ理由の一つです。

前職の製本会社では使用する機械がすでに決まっていて、私は機長の補佐という立場で入社したため、機械にはまったく触らせてもらえませんでした。3年間勤めた中で任せてもらえたのは、決められた作業のみ。このままでは仕事の幅が広がらず、自分自身の成長も見込めないと感じ、転職を考え始めました。そんな時に、当時の同僚から紹介してもらったのが旭紙工です。こちらでは機長として機械を操作させてもらえるので、やりがいを感じています。

——実際に機械を操作してみて、どのような感想をもちましたか。

なかなか難しい面が多いと感じました。決まった納期までに仕上げなく



てはいけないとか、機械が思い通りに動いてくれないとか。忙しい時に限って機械の調子が悪くなることもあって苦労しています。以前、小さな本の断裁を任せられた際は、機械の動作不良で斜めに断裁されてしまったのですが、ミスに気づかず不良品を納品してしまいました。それがクレームに発展し、取引自体がなくなってしまうという事態へと発展してしまつたのです。

ミスの原因は、ルールの見落としにありました。イレギュラーで機械が止まつた後は不良品が出やすいため、特に気をつけるように社内ルールとして決まっていますが、納期に追われる中で、無意識のうちにとぼしてしまつていたのかもしれない。その一件以降は深く反省し、2度と同じミスを繰り返さないよう、チェックを徹底するようになっています。

——これまで印象に残っている仕事があれば教えてください。

様々な種類の本を作っているの、中には単価の安い本もあります。そうした本を、いかに効率良く作り上げられるかという面にこだわって見たことがあります。できるだけ少ない人員で、

どれだけ早く完了できるのか、スピードと作業効率を追求してみました。その経験が、現在の作業の中でも生かされているのではないかと感じています。

——現在の仕事に対する思いや意気込みをお願いします。

世の中は不況といわれていて、中でも出版業界は特に厳しい状況となっておりますが、旭紙工への仕事の依頼は現状、途切れずにいただいています。一時的に仕事の量が減つても、長期間にわたって手が空いてしまうことはありません。そこが会社のすごいところだと感じています。

今後は、コミュニケーションをもっと上手に取れるようになりたいと思っています。中綴じ部門では、チームで動く仕事が多いです。機械を相手にするだけではなく、部門の仲間同士でうまく業務を進行していくためにも、声をかけ合つて互いの状況を把握していくこととする心がけが重要だと感じています。そのあたりを強化していくのが今後の目標です。

同僚の皆さんに伝えたいのは、「コ罗纳禍に負けず、頑張りましょう！」の



一言に尽きるという山本さん。ウイルスに負けない健康体で、不況にも負けないう会社を盛り立てていくには、とにかく今できることを皆で頑張つて乗り越えるのみ。仕事にかける情熱を胸に、山本さんの挑戦はこれからも続いていきます。

企業情報

- ◆ 創 立 年 : 1983 年 1 月
- ※ 創 業 : 1963 年
- ◆ 年 商 : 15 億 円
- ◆ 従 業 員 数 : 200 人

※ 2018 年 12 月 実 績



設備紹介

—WリングPリング—

本社工場で用途に合わせて活躍するWリングとPリング。今回はその両方について、機能や作業の難しさを松尾さんに語っていただきました!

私が紹介します!



まつお たけし
松尾 剛志さん
工場本部 本社 課長

Q.どのような設備なのでしょう?

Wリングは、形成された鉄のワイヤーが入っていて、その中にノートの本文などを入れて圧をかける製本方法です。コンビニで売っているノートなどによく使われています。Pリング(P=PAPER)はその名の通り紙を使用しており、超音波の細かい振動で紙についているのりを溶かしてくっつける製本方法です。こちらはカレンダーやメモ帳によく使われています。Pリングの製品は使い終わった後に分別しなくて良いのが利点で、環境やエコにこだわる企業から需要があります。現在Wリングは3台、Pリングは2台の製本機があり、1フロアにまとまっています。手動の製本機は15~6年前から使用しており、5年前と一昨年にも新しい製本機を導入しました。



ワイヤーと紙の製本機

丁合い作業で活躍

手探りで身につけた操作

新しい機械はこれから

丁寧な作業が必要

売上アップを目指して

Q.いつ使用するものですか?

製本する際に使用します。Wリングの製本機のうち2台は穴を開ける機能もついているので、穴開けと製本を同時に行うことができます。リングを通すのは手作業なので、慣れるまでは大変です。

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか?

資格や免許は必要ありません。ただ、韓国製の機械なので日本語の説明書がなく、導入時にメーカーの方に来てもらって説明を受けたものの、最初は分からないことばかりでした。触りながら少しずつ操作方法を学んで、それを他の人たちに伝えていって作業をしています。

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

Pリングは4名で、Wリングの新しい機械は各機械1名ずつです。

Q.使用上の注意点はありますか?

リングを入れる工程で、慣れない人が作業をすると、リングの個数が合わないなど不良品が多く出てしまいます。不良品をなるべく出さないよう、丁寧に正確な作業が必要です。また安全面では、駆動部分がむき出しであるところに注意する必要があります。

Q.工場本部 本社工場における今後の目標を教えてください!

本社の設備では、無線綴機という製本機が一番売上のあがる機械なので、それに力を入れて来期から24時間稼働させる予定です。そのために、みんなレベルアップするよう頑張りたいと思います。

